とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ベネッセ狛江南保育園
施設所在地	狛江市岩戸北３－２３－８
法人名	（株）ベネッセスタイルケア

１．活動のテーマ
＜テーマ＞

積み木で何ができるか〜子ども同士が協力をしあって具体的なものを作る（３．４．５歳異年齢クラス）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
今までは子どもたちが並べたり積んだりしていくうちに作りたいものがだんだん明確になりイメージを広げていったり、高く積むことを楽しんだりして遊んでいることが多くみられました。その理由として積み木で何が作れるのかを実際に見たことがない、積み木の数が少なく多数の子どもが同時期に作り始めると満足するまで作ろうとしても途中で足りなくなり完成させることが難しかったことです。今年度は積み木の数や場所など物的環境を整え“イメージをしたものを作る”子ども同士で“協力をし完成させる”という経験から達成感を味わい自己肯定感の向上につなげるために設定しました。

２．活動スケジュール

①様々な積み方で高く積む。（４～７月）
②懇談会で保護者に積み木遊びを３～４名のグループごとで経験してもらい“楽しい”を共有する。（６月）
③ものがたりを形にする積木研修（９月）キンダースタッフ２名参加
③作りたいものをイメージして作ってみる（８月～１１月）
④キンダーデイに向けて作りたいものを出し合いグループをきめる（１１月～１２月）
⑤作りたい動物を出し合い、グループごと（２～３名）で作る（１２月）
⑥キンダーデイで制作過程と作品などを展示をする（１２月）
⑦キンダーデイの様子を保護者に掲示、送信する。（１２月）
⑧キンダーデイの様子をブログで発信する（１２月）
⑨子どもたちとキンダーデイの積み木を解体し、振り返りをする（12月）
⑩クリスマスツリーを積み木で作る（12月）
⑪次に何を作ってみたいかこども会議などで話し合う（12月）
⑫園内研修で保育者同士で積み木で遊びどんなものが作れるか体験をし、子どもたちに共有をする
⑬カメラで積み木が出来ていく様子をカメラで連続撮影し、懇談会やブログ、ドキュメンテーションなどで発表をする

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】〈デュシマ〉ウールレンガ積み木・カーブ積み木・半球積み木・箱入りLUXYブロックカラー・ジュエル積み木〈こどものとも社ミッキィ〉ビルディングロッズ〈ワイズ〉スケーラセット丸/角・チップス　〈東リ〉タイルカーペットいなほ/よもぎ〈ソニー〉ミラーレス1眼カメラ等
【環境設定】
・タイルカーペット６６枚分のスペース（１０月まで）全体のレイアウト変更に伴いタイルカーペット７７枚分のスペース（１１月～）を確保した。また、スペースが不足したらひろげられるようにしました。
・はじめは保育者と子ども１対１からはじめじっくりと作りたいものに取り組めるようにしました。
・同じものを作りたい子が集まったときも保育者が１名入り各々の意見やイメージを尊重し見守る姿勢や共感する言葉がけを意識しました。
・イメージが広がったときは図鑑やインターネットから画像を集めイメージが共有できるようにしました。

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

作りたいものをイメージして作るというテーマをもとに保育者が参加した研修で身に付けた様々な積み方を活かし、作ってみたいものを形にすることを一緒に楽しむようにしました。また、作りたいものに必要な材料を十分に揃えたことで子ども同士で相談をしながら同時期に動物を６体作成し行事（キンダーデイ）で保護者に直接見てもらう機会を作りました。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

【マイカーを作ろう】
動物を作ろうとする姿が多くみられる中、車を作ってみたいと４歳児から声があがりました。
子：「タイヤってどうやって作ったらいいの？」
保：「タイヤってどんな形かな？」
子：「なんか、まるいよ」
保：「じゃ、どうやって積んだら丸くなるか
　　やってみよう」
以前球体を作ったことを思い出し広げたり狭めたりして積むことができました。

【４本の脚】
子どもがつくる子どもの会『キンダーデイ』にむけてゾウを作ることにした３歳児２名と５歳児２名のグループ。特徴を図鑑で調べ、脚から作ることになりました。
子：「４人いるからさ、１本ずつ作ろ！」
子：「こんくらいの高さ？」
子：「おんなじくらいかな～？」
何度も見比べて相談し同じ高さになるまで調整をしていました。

【しっぽは何で作ろうか】
ライオンの形ができるとしっぽをどうしたらよいか迷い始めた５歳児。
子：「しっぽどうする～？」
子：「どんな形だっけ？」
子：「ふさふさ」
保：「毛糸もあるよ」
子：「これ、三つ編みにしたらいんじゃない？」
モールも入れてふさふさのしっぽが完成しました。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

　子どもの主体性に頼るだけでなく保育者も積極的に積み木遊びに参加しようとしていく中で研修に参加をし新たな気付きを得ることができました。具体的には「積み方のバリエーション」「積み木だけで完成させなくてよい、ほかの素材と組み合わせてもよいこと」を知ることができました。

　また、遊び方、場所の使い方の工夫をする中で平面からの脱却、実在するものを作ることを意識したことで「シルエットを積み木に置き換えてイメージする力」がどんどん育っていきました。

　積み方のアイディア、積み木の種類が増えたことにより、子どもの器用さ慎重さが育ち、集中力が続くようになりました。

　４歳児は特に友だちと協力して作ることが増え、一人ではあきらめてしまうが一緒ならやり遂げることができることにも気が付き仲間の存在の大切さを学ぶことができました。

　最後に、子どもたちののワクワクする表情をみて保育者もどんどんアイディアが広がり一緒にやってみたいことが増えました。